

令和2年度 清水海岸侵食対策検討委員会 委員意見と回答一覧

番号	意見	事務局回答
1	<p>安倍川からのサンドバイパス養浜の土砂供給量が25万m³に増えたことに合わせて、清水海岸下流への伸びが蛇塚付近から加速させられることに力を入れて下さるようお願い致します。</p>	<p>サンドバイパス養浜については、ヘッドランド区間に優先的に養浜しますが、大量の土砂を確保できる場合は、蛇塚付近に養浜することでサンドボディの進捗を図ってまいります。</p>
2	<p>清水海岸については、侵食が著しく進んできているので、種々の対策がとられてきた。今後も同様であろう。</p> <p>その場合、例えば数か月かけて養浜（サンドリサイクル含む）が行われた後、高波浪が作用し、短時間のうちに養浜砂が流出することは今までよく見られてきた。</p> <p>このような急速な侵食の後（前浜が狭まった状態で）、再び高波浪（2度目の台風）が作用した場合の侵食はどうなるのか、またその場合の対策はどうなるか考えておいた方がよいのではないのでしょうか。</p>	<p>これまでは緊急養浜として、侵食箇所周辺で流出せずに残っている盛土養浜の土砂を押し出すなどの対応をしてきましたが、養浜した土砂は高波浪の継続時間が長い場合はピーク前に再び流出するのが現状です。特に侵食が著しい区間においては、1号突堤下手で進めているような、根固工や越波しても浸水被害を軽減できる堤防背後の対策（土堤嵩上げなど）等も視野に検討してまいります。</p> <p>また、一連の対策でも十分な効果が確認されない場合には、地区毎に異なる地形条件等を踏まえて新たな漂砂制御施設の整備など抜本的な対策についても検討してまいります。</p>
3	<p>・養浜予定箇所と養浜材採取箇所の底質調査の結果は、養浜の効果を検討する上で貴重なデータだと思います。今後、新たな箇所で養浜材を採取する場合には、今回と同様の底質調査を実施するのが望ましいと思います。</p> <p>・1号突堤下手は、復旧中の2号消波堤や養浜の効果が始めているものの、越波や堤防被災の危険性が比較的高い状態にあると思います。今後、1号突堤下手に養浜する際には、量の確保とともに、歩留まりが比較的良好な材料を使用することが望ましいと思います。</p>	<p>新たな箇所で養浜材を採取する場合には、養浜効果の検証の基礎データとして、底質調査を行うよう調整してまいります。</p> <p>1号突堤下手については、歩留まりの良い粗粒材の割合が高いサンドリサイクル養浜の土砂を投入しています。当箇所においては、引き続き、サンドリサイクル養浜を中心に施工してまいります。</p>

令和2年度 清水海岸侵食対策検討委員会 委員意見と回答一覧

番号	意見	事務局回答
4	<p>静岡県静岡土木が提案された実施計画に対して、概ね賛成できます。以下に、補足意見を述べさせていただきます。</p> <p>1) 蛇塚・増地区への養浜は、必要浜幅を確保できていないのに拘らず、サンドボディの到着が当初より遅れているので、優先事項だと思います。安倍川からの養浜が認められているうちに、積極的に実施してください。</p> <p>2) 卓越波向きに対する3号ヘッドランドと4号ヘッドランドとの位置関係によって、<u>冊測線No.52の汀線は構造物の位置関係を変えない限り、これ以上前進しません。</u>それゆえ、側線No.52の汀線を必要浜幅へ持っていくためには、第1消波堤の撤去ブロックを使って3号ヘッドランド直ぐ下手の消波工を少しでも沖出しして、その陸側に養浜するのも1案です。</p> <p>3) 卓越波向きに対する5号ヘッドランドとL字突堤との位置関係によって、<u>測線No.38の汀線は構造物の位置関係を変えない限り、これ以上前進しません。</u>それゆえ、測線No.38の汀線を必要浜幅へ持っていくためには、5号ヘッドランド直ぐ下手の低天端消波工（根固工）を少しでも沖出しして、その陸側に養浜するのも1案です。</p> <p>4) 測線No.28の汀線を必要浜幅へ近づけるためには、重要な侵食防止工である2号消波堤復旧を出来るだけ早く終えて養浜しましょう。また1号突堤の漂砂捕捉能力が強力なので、1号消波堤も撤去すべきでしょう。</p> <p>5) 1号突堤の漂砂捕捉能力に比べて、2号消波堤の捕捉能力は弱いため、測線No.28の汀線の大幅前進を期待出来ません。それゆえ、2号消波堤の交代対策工としての2号突堤建設を検討せざるを得ないでしょう。ただし、2号突堤が1号突堤と同規模ならば、強力な漂砂捕捉能力を持つでしょうから、<u>下手側の侵食が玉突き的に広がらないように、突堤の設置位置と諸元について慎重な再検討が必要です。</u></p> <p>6) 測線No.17～7の汀線が維持されていますので、ここからの養浜材採取量を新年度に減らす必要性は低いでしょう。</p>	<p>1) サンドバイパス養浜に余裕がある場合は、離岸堤区間（蛇塚・増地区）への養浜を積極的に進めてまいります。</p> <p>2) 現在は、1号消波堤の撤去ブロックを使用して、3号ヘッドランド下手の消波工嵩上げを実施しています。また、H27委員会での検討を踏まえ、根固工（低天端）の沖出し工事を実施したところです。（R2完了）新たな根固工背後への養浜も実施しながら、引き続きモニタリングしていきます。</p> <p>3) 5号ヘッドランド下手については、盛土養浜を重点的に実施しているところです。引き続きモニタリングをするとともに、必要に応じて根固工（低天端）の沖出し等も検討してまいります。</p> <p>4) 2号消波堤の復旧工事がR3.3に完了し、1号突堤と2号消波堤の間に重点的に養浜を行っているところです。今後も当区間に重点的に養浜を行うとともに、1号消波堤の段階的撤去も継続してまいります。</p> <p>5) 別途検討している2号新堤については、1号突堤の漂砂捕捉能力等を検証した結果、横堤のみの構造とする方針となりました。引き続き、設置位置や構造物の規模なども慎重に検討してまいります。</p> <p>6) サンドリサイクル養浜材の採取箇所については、引き続き採取後の地形モニタリングを行い、採取位置を選定してまいります。</p>

令和2年度 清水海岸侵食対策検討委員会 委員意見と回答一覧

番号	意見	事務局回答
5	<p>3号、4号ヘッドランドの間にヘッドランドが必要では？ 4号、5号ヘッドランドの間にヘッドランドが必要では？ 共に海岸が多く抉られているのでは？ 特に4号は深いと思われる。</p>	<p>清水海岸については、景観や海岸利用に配慮して、設置間隔を広くとることが可能な「ヘッドランド工法」を採用し、土砂供給の不足を補うための「養浜」と組み合わせることで必要な砂浜を保全することとしています。</p> <p>ご指摘のとおり、各ヘッドランドの下手側は必要浜幅が確保されていない区間が残っておりますので、引き続きサンドバイパス養浜を集中的に実施するとともに、地形モニタリング結果を注視してまいりますのでご理解願います。</p>
6	<p>折戸の南校下、東海大学下が台風が来るだに侵食される。侵食されない方策はないだろうか？ヘッドランドの間隔が広すぎるのではないかと考えています。一カ所でいいから一度テストで中間にブロックを入れてみたら。</p> <p>三保の新しい突堤の下側は大量に侵食された。年々大型化する台風が心配です。土の堤防はもちろん必要ですが、まず侵食されない対策が必要ではないだろうか。</p>	<p>清水海岸については、景観や海岸利用に配慮して、設置間隔を広くとることが可能な「ヘッドランド工法」を採用し、土砂供給の不足を補うための「養浜」と組み合わせることで必要な砂浜を保全することとしています。</p> <p>ご指摘のとおり、3号ヘッドランド下手（南校下）、4号ヘッドランド下手（東海大学下）は侵食を受けやすい箇所であり、特に3号ヘッドランド下手は必要浜幅が確保されていない区間があります。当箇所においては、サンドバイパス養浜に加えて1号消波堤のブロックを活用した消波工の嵩上げを行いました。引き続きサンドバイパス養浜を集中的に実施するとともに、地形モニタリング結果を注視してまいりますのでご理解願います。</p>